

中期目標 (学校ビジョン)	1 主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。 2 チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。 3 地域連携の主体となり、地域に根差した学校としての役割を果たす。	今年度の重点目標 1. 授業に集中 ①高校生活や授業におけるルールやマナーの徹底 ②生徒の自宅学習時間の確保 ③AL9の視点による公開授業等の実施 2. 行事で団結・部活は熱中 ①地域から信頼される学校づくり ②生徒の悩みへの的確な対応 ③学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営 3. 進路に挑戦 《探究》地元大学との積極的な連携、高い志望に挑戦 《総合》多様な進路に対応、第一志望を目指す 《体育》全国を目指す、基礎学力を確実に育成 ①進路実現に向けて努力している生徒の割合の増加 ②国公立大合格者数の増加 4. 学校業務改善の取組を進め、生徒への学習・生活・進路指導等の充実を図る

年 度 当 初				評 価 結 果 (10) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状(令和元年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策
授業に集中	高校生活や授業におけるルールやマナーの徹底	98%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけ(保護者99%、職員98%)、91%の生徒が授業の予鈴で着席する等、授業時間を大切にしている(職員100%)。	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合(98%以上)【学校評価アンケート】 ・スマートフォンの利用について、ルールやマナーの徹底を図る。	・自律的にルールやマナーを守ろうとする八頭高生の育成を目指し、挨拶の重要性やマナーの遵守について粘り強い指導を行い、様々な機会を捉えて保護者の理解を図るとともに、生徒に対しては「伝わる」指導を行う。 ・学校評価アンケートの結果を分析し、教育活動の改善に生かす。 ・生徒保健委員会メディア調査を通年実施し、保護者との連携を図りながらルールづくりを進めるなどしてスマートフォンの長時間利用者の指導を継続する。	・校内で挨拶をする生徒が多く、また登下校時のマナーも良好であり、自律的にルールやマナーを守ろうとする態度が育ってきている。 ・生徒保健委員による生活リズム調査を通じたスマートフォンの使用に関わる啓発活動を継続的にっており、生徒の意識レベルも少しずつ向上し成果が現れつつある。	C ・ルールを守る姿勢も大半の生徒は良好であるが、一部生徒の頭髮服装の乱れや意識改革を学年・部活動と連携して改善を図っていく。 ・登校時のマナーは特に大きな問題はないが、下校時のマナーは新しい行動様式に関連して、マスク着用や大声で話さないなど課題がある。学年・部活動顧問とも連携し、自発的にマナーを身につけようとする姿勢を促したい。 ・生徒保健委員の生活リズム調査による啓発活動は引き続き実施する。職員による指導と生徒による活動を続けていくことで規範意識の高揚に努めたい。
	生徒の自宅学習時間の確保	1日当たりの自宅学習時間平均(11月)は、1年83分、2年80分、3年166分であり、1年2時間以上25%、2年3時間以上4%、3年4時間以上30%である。コース別・学年別の自宅学習時間は体育コース(1年39分、2年19分、3年19分)、1年探究・総合コース78分、総合コース(2年64分、3年144分)、探究コース(2年89分、3年265分)である。	・生徒の自宅学習時間(1.23年別の時間(分))(それぞれ1、2年90分、3年200分以上)【自宅学習時間調査】 ・クラス担任と教科担任、部顧問等が連携し、生徒の自宅学習時間の確保に努める。	・クラス担任が学習時間調査をもとに、個別面談で具体的な学習内容の状況についてフィードバックを行うだけでなく、教科担任も適宜面談を実施するなどして、学習進捗状況を確認めたり、効果的な学習指導となるよう留意する。	・6月の自宅学習時間調査では、1日当たりの学習時間の学年平均が1年114分、2年105分、3年139分であり、1日2時間以上学習している割合が1年40%、2年38%、1日3時間以上学習している割合が3年32%であった(1週間の平均)。今年度は例年(4月)と調査時期が異なり期末考査の2週間前となったことから、1、2年生は目標時間を上回っているが、3年生はまだ宅学習時間が少なく課題が残る。 ・7月の授業評価アンケートによると、1日2時間以上学習している割合は1年が平日15%、休日47%、2年が平日27%、休日48%、3年で3時間以上学習している割合は平日28%、休日45%であった。	C ・クラス担任が学習時間の少ない生徒を把握し、教科担任、部顧問とも連携して個別面談を行い、継続して指導していく。
	AL9の視点による公開授業等の実施	全教科(延べ17名)において研究・公開授業を実施した。	・AL9の視点をもって、全教科で公開授業等を実施する。【実施教科数】 ・ALの推進及び高大接続改革への対応に学校をあげて取り組む。	・授業では相手(生徒同士・教員同士・生徒教員相互)に敬意を払うとともに、ICT機器等も効果的に活用し、 ①外部への表現活動(思考して解く、他人に教える、理解しながら読む、振り返りながら書く、意見や考えを述べる等のアウトプットを含む活動)や ②他者との協同等を意識した生徒主体の学習を、授業時間の2割以上とする。	・今年度は新型コロナウイルスの影響があり、9月末現在で研究・公開授業を実施したのは2教科のみである。情報科がオンラインによる公開授業を2回実施し、また地歴公民科がアクティブラーニングによる日本史の授業を実施した。今後、各教科で研究・公開授業を実施する予定である。 ・ICT活用に関する研修会参加や学校訪問についても、新型コロナウイルスの影響で延期となっており、さまざまな状況をみながら検討を行っている。 ・地歴公民科の公開授業のように、アクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒による主体的・対話的な授業実践が少しずつ増えている。	C ・新型コロナウイルスの感染防止策を講じた上で、今後は授業形態を工夫しながら研究・公開授業を実施し、教員相互に研修を行っていく。 ・11月には外部講師を招いて探究活動に関わる授業研修会を開催し、講師による示範授業、研究協議を実施し、そのノウハウを授業改善に活かしたい。
	(注)外部への表現活動や生徒主体の学習等を授業時間の2割(＝9分)以上取り入れることを「AL9」と呼ぶ。(以下同様)					
行事で団結・部活は熱中	地域から信頼される学校づくり	「八頭高愛し愛され運動」の参加者は第1回(6月)296名、第2回(11月)262名であり、全校生徒の半数を超えた。	・「八頭高愛し愛され運動」への参加者の割合%(全校生徒の60%以上)【2回の運動参加者数の合計】 ・地域課題について理解し、その解決に向けて取り組む生徒を育成する。	・八頭高愛し愛され運動、中学生体験入学、翠陵祭、八頭高ライフ体験等の諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画・実施に取り組むとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。 ・地域の方と触れ合う行事を通じ、地域課題を考える機会とし、その解決策を総合的探究の時間、探究ゼミなどで探究し、八頭高生としてのアイデンティティを育む。	・八頭高愛し愛され運動は、6月に1回目を行い、371名の参加があった。昨年の参加数を大幅に更新することとなった。中学生体験入学は、10月11日へと延期になったが、執行部も協力実施する予定である。翠陵祭は、新型コロナウイルス対策を施した上での実施となった。対策を講じた結果、多くの変更を行ったが、演目自体は極力減らすことなく昨年に近い形で行うことが出来た。 ・今年度前期は、コロナウイルスの影響により、企業家訪問等の地域との連携を図ることができなかった。	B ・参加人数などの数値目標から、内容の充実への変化が必要な時期にきている。 ・来年度、探究類型以外の2年生の「翠陵探究」の時間では、地域をテーマとした探究活動を行う。また来年度、探究類型の2年生の探究ゼミでは、より深い研究をめざすなかで、地域の諸課題に取り組むグループを増やす。今年度は大学や企業と連携を図ることでその準備を行い、これまでの取り組みを強化していく。
	生徒の悩みへの的確な対応	82%の生徒(保護者78%、職員94%)は、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。	・八頭高は生徒の心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると回答する生徒・保護者の割合(生徒85%以上、保護者80%以上)【学校評価アンケート】 ・生徒の悩みに的確に対応するため、教職員間の連携を図る。	・日々の生徒観察や声かけ、hyper-QUの分析・検討会、個別面談、教育相談・特別支援委員会、教育相談係・保健係連絡会、人権教育LHR等を通して生徒の悩みを把握する。 ・教職員同士がコミュニケーションを密に取り合い、保護者との連携も図りながら生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。	・昨年度同様、9月末時点までに「いじめアンケート」「Hyper-QU調査」をそれぞれ2回ずつ実施し、悩みを抱えている生徒についての情報共有を行うとともに、クラス担任、学年団、教育相談係を中心に、該当生徒のケア、あるいは、見守り(観察)を行っている。 ・必要に応じ支援の必要な生徒については、学年団、教育相談係、各教科担任と情報共有を行っている。	B ・今後もいじめアンケート(2月)については、アンケート結果の情報共有を行い、生徒支援に活かしていく。 ・要支援生徒に関する情報共有も今後継続して行うようにしているため、これらの機会も活用しながら生徒支援を行っていく。
	学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営	自宅学習を毎日行っている生徒は59%(1年48%、2年63%、3年69%)であり、56%の生徒(保護者65%)が学習と部活動の両立を果たしていると考えている。体育コース生の全国大会出場は23名(延べ42名)である。	・学習と部活動の両立を目指して、毎日自宅学習を行っている生徒の割合(60%以上)【学校評価アンケート】 ・全国大会に出場した体育コース生が30名以上であり、学校生活、部活動をリードしている。【実人数】	・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組めるよう、部活動の的確な方針や計画等を設定するとともに、学習と両立させた部活動運営を行う。 ・教科担任、クラス担任が部活動顧問と協力しながら面談等の指導を継続実施する。 ・体育コースでは、特色ある行事を継続実施し、学習面、生活面の充実を図り、学校生活、部活動のリーダーとしての自覚を促す。	・7月の授業評価アンケートによると、毎日自宅学習を行っている生徒の割合は全体で52%(1年39%、2年45%、3年69%)であり、1・2年生で目標数値を大きく下回っている。また、学習と部活動が両立できていると考えている生徒の割合は、全体で72%(1年68%、2年68%、3年78%)であった。 ・面談等では、生徒に対して部活動の事も話題になっている。状況によっては部顧問と連携して生徒指導を行っている。 ・今年度、運動部文化部門問わず中国・全国大会が行われておらず数的目標を判断することが難しいが、体育コースの生徒はそのような困難な状況でも部活動においてリーダー的な役割を担っている。	C ・日々の学習の取組を徹底するよう、教科担当者が中心となって粘り強く指導する。また、学習や部活動に問題や悩みを抱えている生徒については、クラス担任と部顧問が連携して、個別面談等を行っている。
進路に挑戦	高い志望に挑戦する意欲を持った生徒や第1志望を目指して地道に努力し続ける生徒の育成	進路を実現するために目標に向かって努力している生徒(10月)は、1年67%、2年74%、3年92%である。	・進路実現に向けて努力している生徒の割合(1年70%、2年75%、3年95%以上)【学校評価アンケート】 ・生徒の学力向上を通じた進路実現に学校をあげて取り組む。	・キャリア形成に関わる様々な事業や、各コース、各分掌及び学年等の諸行事について、その意図・意義を生徒にしっかり理解させ実施することにより、視野を広げるとともに生徒自身のキャリアデザインにつなげていく。 ・キャリア教育全体計画に基づき、キャリア設計講演会、「大学生に聞く」講演会、長期休業中補習、勉強会、サテライン講座の実施、土曜自習・質問教室などの活動を通してキャリア選択と学力向上を図り、進路実現をより確かなものにしていく。	・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、本校においても延期となった行事が9月に降に徐々に実施できるようになってきた。キャリア設計講演会や難関大講演会、入試改革研修会など、リモート対応ではあるが実施できている。ただ、リモート講演会では意識の高い聴衆にしか高い効果が期待できないなど問題点が残った。夏季勉強セミナーには1年129名、2年106名が参加し、3年の校外で実施した夏季勉強会には58名が参加した。3年の放課後補習はⅠ期69名、Ⅱ期129名が受講し、昨年より受講者数が増加している。Ⅲ・Ⅳ期は募集中だが、多くの生徒の参加が見込まれる。 ・今年度は探究コースにおいて新たに学年の枠を超えて学びあうBridgeという取り組みをスタートさせた。今後も継続的に実施し、難関大志望者の増加につなげることができると考える。	C ・感染症対策を取りながら様々な行事についてより効果的に実施していくための工夫が必要である。例えばリモート対応の講演会のあり方や勉強会に代わる学習会の在り方などを検討していく。 ・3年生においては放課後補習に加えて生徒の自由参加型の学習会を実施し、主体的に学びたいという生徒がさらに力をつけていける環境を整えていく。 ・ブロック大以上の大学を目指す生徒については2年次の後半には過去問の添削指導を受けるように促していく。
	《探究》地元大学との積極的な連携、高い志望に挑戦《総合》多様な進路に対応、第一志望を目指す《体育》全国を目指す、基礎学力を確実に育成	国公立大学志願者(10月)は、1年149名(4月126名)、2年128名(1年4月126名)、3年99名(1年4月127名)である。大学入試センター試験受験者は143名(総合・探究コースの61%)であり、前年比1名減であったが、本年度は多くの生徒が5教科型で受験した。国公立大学合格者数は54名	・国公立大合格者数の増加(60名以上)【3月末現役・過卒の合計人数】 ・生徒の学ぶ意欲を喚起するような進路指導に努める。	・生徒との個別面談等とおして、1、2年生は所期の志望の実現に向けて強く希望進路を意識させ、その目標に向けて自律的に行動できる態度を育成するとともに、3年生は4月時点の希望進路の実現に努める。 ・大学・学部・学問研究の充実によって、将来のキャリアを見据えた上で何を学ぶべきかを考えさせ、具体的な進路目標に向けて努力する態度を育成する。	・進路志望調査(4月)による国公立大学志望者は1年113名(43%)、2年144名(54.5%)、3年105名(41%)であり、国公立大学の志望者が2年では例年より増加しているが、1、3年ではやや減少している。専門学校志望者は医療・看護系志望者を中心に3年54名(21%)、2年44名(17%)、1年48名(20%)と各学年とも20%程度で大きな変化はない。多様な進路志望を持った生徒がいる中で、難関大を含む高い志望に向かって努力をする生徒を育成するためには国公立大志望者数の増加を図らなければならぬ。 ・会議・委員会等を可能な限り日時内に組み込むようにしている。また、会議の定刻開催、会議方法の見直しなどにより一定の成果が見られる。今年度は新型コロナウイルス感染症のため多くの学校行事が中止、延期になっている。また、この感染症予防対策で、各分掌に付加的な業務が発生し、本来の分掌業務以上の業務に携わらなければならなかった。 ・部活動に係る時間外業務は前年比で減少してきている。部活休養日の確保、部活動時間の遵守等を徹底し、まだ課題がある。	C ・大学の模擬授業や説明会などを行い、大学進学への意識を高めさせる工夫をしていく。 ・大学・学部・学問研究の一層の充実のために生徒自身が主体的に進路情報を収集・活用できる環境を充実させる。 ・面接指導やLHRに資する有用な資料を紹介・提供する。 ・各大学等の実際の要項をもとに入試情報を分析・研究する。
業務改善の取組	時間外業務の縮減	時間外業務の縮減と長時間勤務者の解消に向けて、改善点の洗い出しと実現に向けた手立てをおこなう。	・月あたりの時間外業務をH29年度比で25%削減する。 ・すべての部活動が部活動基本方針に基づいて適切に部活している。	・会議・委員会等を可能な限り日時内に組み込むようにしている。 ・学校行事等の準備の簡素化、各分掌業務の適正化を図る。 ・部活動基本方針に基づいた効率的で教育的な部活動運営を意識しながら、休養日や部活動時間を遵守する。	・会議・委員会等を可能な限り日時内に組み込むようにしている。また、会議の定刻開催、会議方法の見直しなどにより一定の成果が見られる。今年度は新型コロナウイルス感染症のため多くの学校行事が中止、延期になっている。また、この感染症予防対策で、各分掌に付加的な業務が発生し、本来の分掌業務以上の業務に携わらなければならなかった。 ・部活動に係る時間外業務は前年比で減少してきている。部活休養日の確保、部活動時間の遵守等を徹底し、まだ課題がある。	C ・会議・委員会の定刻開催、会議方法のさらなる見直しを行い、時間短縮に努める。 ・各分掌内での業務分担を進め、効率化を図っていく。 ・時間外業務月45時間以内の実現に向けて、組織的に取組んでいく。